

第 34 回荒川の将来を考える協議会 決定事項

1. 江東区長より、「みんなで作る伝統、未来 水彩都市・江東」と題して江東区における荒川とまちづくりの取り組みについて発表された。
2. 以下について報告された。
 - ①地区別計画の策定、進捗状況報告について
地区別計画 2 市 7 区の進捗状況が報告された。
江東区と足立区の 2 区より市民会議等の議論を踏まえてとりまとめられた計画の概要が報告された。
荒川将来像計画 2010 地区別計画の江東区編及び足立区編は承認された。
 - ②自転車と歩行者の接触事故防止のための試行について
自転車と歩行者の接触事故防止のための試行について報告された。
この件に関連し、2 市 7 区の取り組みや課題等について意見が出された。
 - ③東京低地河川推進協議会について
東京低地河川推進協議会の設立趣旨及びこれまでの議論内容について報告された。
 - ④荒川下流防災施設運用協議会について
荒川下流防災施設運用協議会について、報告された。
 - ⑤まちづくり検討会について
まちづくり検討会について、報告された。
 - ⑥明治 43 年大洪水から 100 年キャンペーンについて
明治 43 年大洪水から 100 年キャンペーンについて、報告された。
 - ⑦その他
第 68 回国民体育大会（平成 25 年東京国体）ボート競技会概要について、報告された。
3. 次回協議会は平成 24 年 7 月頃に江戸川区において開催を予定する。

以上

第 34 回荒川の将来を考える協議会 議事概要

日 時：平成 24 年 3 月 8 日(木)14:00～16:00

場 所：江東区総合区民センター レク・ホール

1. 開会

2. 議事

(2)江東区長発表「みんなでつくる伝統、未来 水彩都市・江東」

【江東区長】

江東区における荒川とまちづくりの取組みについて発表された。

1) 江東区の地勢と沿革

- ・江戸時代まで江東区は河川のデルタ地帯と散在する小島があるだけだったが江戸初期より埋め立てが始まった。
- ・明治以降は、近代化と都市化がすすみ、運河を利用した工業が発展したが、関東大震災や東京大空襲、キティ台風など、度重なる災害により大きな被害を受けた。
- ・昭和以降は、ゴミ戦争と埋立地の進展に伴い、江東区潮見や夢の島をはじめとした埋立地が整備されてきた。
- ・地盤沈下による水害の危険性が危惧されたが、外郭堤防などが整備され、大水害に見舞われることはなくなっており、水辺のまちとして再生を図っている。

2) 江東区の抱える課題

- ・江東区の抱える課題として、築地市場の豊洲移転整備、中央防波堤埋立地の帰属と海の森計画、防災都市江東の実現などがある。

3) 江東区の重要プロジェクト

- ・女性と子供にやさしい医療を提供することを目的に、南部地域における総合病院の整備を行っている。
- ・区南部の急激な人口増に対応することを目的とした「(仮称)シビックセンター」の整備を行っている。あわせて、当該地では、子育て・教育環境の整備や高齢者・障害者関連施設の整備を行っている。
- ・緑化・温暖化対策の推進として、「CITY IN THE GREEN」として、緑視率と品格あるまちづくりを進めている。
- ・恵まれた水辺を活用したまちづくりとして、「和舟の活用」、「カヌー・カヤック場の整備」、「川の駅で水辺のにぎわいづくり」を行っている。特に川の駅では、水陸両用バスを運行させることで地域活性化の実現にむけた計画がある。

4) 荒川を介した事業展開

- ・憩いの場としての荒川砂町水辺公園、防災拠点としての荒川ロックゲート、エコロジカルネットワークの拠点としての荒川河川敷など多くの関連がある。

5) まとめ

- ・人口が増加基調にある江東区では、「みんなでつくる伝統、未来 水彩都市・江東」をテーマに、「住みよいまちづくり」、「安全・安心なまちづくり」、「水とみどりのまちづくり」の視点から取り組みを行っている。

【足立区】

恵まれた水辺を活用した特徴あるまちづくりの事業の一つに「川の駅」があったが、川の駅の敷地内の商業施設はどのような運営で行うのか。

【江東区長】

基本的には民間の商業施設を誘致して進めることを考えている。

(2) 地区別計画の策定、進捗状況報告について

【荒川下流河川事務所】

地区別計画の策定、進捗状況について報告した。

- ・地区別計画の位置づけ、検討体制、基本理念について説明があった。
- ・2市7区のうち、足立区と江東区がとりまとめが完了している。その他、1市6区は次回協議会までにとりまとめが終わり、次回協議会で策定を予定する。
- ・足立区・江東区の地区別計画が承認された。

【足立区】

江東区の地区別計画について、住民の方々が維持管理に入っていると紹介があったが、詳細に教えていただきたい。

【江東区】

江東区が河川敷を借りて開放しているのは、砂町水辺公園であり、その多くはエコスペースである。このエコスペースを管理するボランティアの方々がおり連携して維持管理を行っている。近年高齢化してきている点など一定の課題もある。

(3) 自転車と歩行者の接触事故防止のための試行について

【荒川下流河川事務所】

自転車と歩行者の接触事故防止のための試行について報告した。

- ・試験的に緊急用河川敷道路の一部区間に利用表示区分のライン（水色）を表示させ、平成24年3月21日から10月下旬ごろまで実施する。
- ・今後、実施までに試行の周知・意見募集を行い、試行中もアンケート、現地実態調査、事務所ホームページによる意見聴取を行う。
- ・現時点の2市7区における自転車利用に関する課題などがあれば聞きたい。

【戸田市】

河川敷における自転車による苦情は特に来ていない。

【川口市】

河川敷における自転車による苦情は特に来ていない。

【板橋区】

河川敷における自転車走行において、大きな事故は発生していないが、取締りの強化の依頼などの話はある。今回の試行結果を受けて対応を考えたい。

【北区】

新荒川大橋の上流にある駐車場周辺は、自動車の駐車場へのアクセス道路と連結しており、高速走行の自転車等が多く走行するため、安全対策が必要。

【足立区】

右岸側で高速自転車関連の事故が発生している。利用者には、サイクリングロードとして認識されているが、あくまでも管理用道路であることを認知させる必要がある。

【墨田区】

自転車の高速走行による重大事故等はない。

【葛飾区】

自転車の高速走行は危険という意見があるため、今回の試行結果をうけて今後対応を検討したい。

【江戸川区】

自転車による死亡事故も発生している状況であり、今回の試行結果については注目している。今回の試行周知のための看板にある「自転車専用レーンではない」部分はもっと大きく周知してはどうか。

【江東区】

年に数回、高速走行自転車に対応するためのチラシを配布している。人と自転車の関係性など、今回の試行を受けて考えたい。

【荒川下流河川事務所】

事務所としては、河川行政を中心に掌握しており、自転車利用等については、沿川の自治体のもつ自転車利用等に関するノウハウなどをお聞きしながら進めていきたい。

(4) 東京低地河川推進協議会について

【荒川下流河川事務所】

東京低地河川推進協議会について、その設立の背景と目的について報告した。

- ・平成23年度の開催状況は、これまでに2度の会議と1度の社会実験が行われており、今年度中にもう1度開催する予定である。
- ・社会実験のテーマとしては、「災害時における船着場の機能とその実用性の検証」と「船着場の平常時利用（民間利用）促進に向けた課題の抽出」を設定

して実施した旨の説明があった。

- ・今後、船着場の平常時利用に向けた課題として、協議会や社会実験結果を踏まえて整理する旨の説明があった。

(5) 荒川下流防災施設運用協議会について

【荒川下流河川事務所】

荒川下流防災施設運用協議会について報告した。

- ・目的と背景について説明した。
- ・荒川下流防災施設活用計画における検討方法、検討メンバー、定義、位置付け、対象施設・区間について説明した。

3. その他

- ・まちづくり検討会について
- ・明治43年大洪水から100年キャンペーンについて
- ・第68回国民体育大会（平成25年東京国体）ボート競技会概要

【隅田区】

沿川まちづくり検討会の中にある実施計画の策定スケジュールは、平成24年度予算に計上の記載があるが、おおまかな予定が決まっていれば教えて頂きたい。

【荒川下流河川事務所】

例年通りであれば、予算が国会で成立後、実施計画が確定されることとなる。

【戸田市】

資料に示してある沿川まちづくり検討会の詳細の範囲をお聞かせ頂きたい。

【荒川下流河川事務所】

詳細の区間については現時点でまだ確定していない。

3. 次回協議会について

【議長】

次回協議会は平成24年7月頃に江戸川区において開催を予定する。

【江戸川区】

荒川水系河川整備計画の策定に向けた考え方についてお聞きしたい。

【荒川下流河川事務所】

国会のなかでも早く作るようにという質問があった。事務所としても早く作る必要があると認識しているが、いつまでに策定という期限は設けられていない。

以上